

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicyamate.org/>

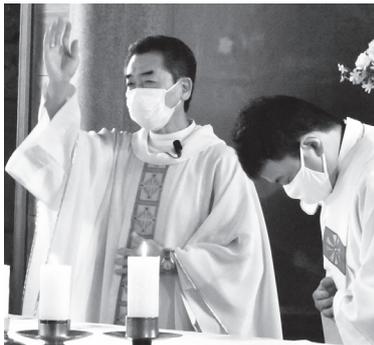
第617号 2021年7月11日

鈴木真主任司祭 主日ミサ説教

2021年1月31日：年間第4主日B年

マルコ福音書 1章21-28節

イエスが「汚れた霊」、『聖書と典礼』にあるように「悪霊」と書かれる場合もありますが“それに取りつかれた人から追い出す”という記事は、福音書に、たまに出てきます。いわゆる「悪魔払い」のようなものとどう関係するのかは、正直よく分かりません。ただ、聖書を注意深く読むと、幾つかのことに気付かされます。



まず、聖書で「霊」とは、いわば“人を動かす力”を指します。「聖霊」は、言うまでもなく神さまからの働きかけの力。そして、「悪」とは“神に反する要素”のことで、そこからすると、「悪霊」とは人を神さまに反する方へ、あるいは神さまから離れさせようとする力と言えるかもしれません。福音書では、それが擬人的に描かれているのですね。

面白いのは、「悪霊」が先に反応することです。しかも、ご丁寧に「ナザレのイエス！お前の正体は神の聖者だ！」などとイエスさんの紹介までしてくれる。まあ一説によると、これは古代における悪霊追放の物語のパターンでもあるそうですが、違う見

方を見ると、福音が示される時、それに逆行する要素が必ず浮き彫りにされると言えるのかもしれませんが。この世的価値観、人間社会の常識など、わたしたちが普段、無意識に従っているものは、そこに〈神さまのものさし〉が示されたとき、その不完全さがおのずと明らかにされます。例えば、神さまが一つひとつのいのちをどれだけ大切にしておられるか。特に、弱い立場に置かれた人、傷ついている人や少数者に真っ先に目を向けられる〈神さまのものさし〉です。人間社会でも少数派を大切にしなければならぬことは分かっている、それを実践するのはなかなか難しい。常に多数派が物事を動かすからです。でも、神さまは違うということなのでしょう。

そして、もう一つのポイントは、福音書が語る「奇跡物語」との共通点です。イエスが奇跡を行われるとき、わたしたちはどうしてもその現象面、つまり病気が治ったとか、障害が取り除かれたとかという不思議な出来事の方に目が行きがちになりますが、本当に大切なのは、「イエスの背後にあって神さまが働いている」ということです。「悪霊追放」の物語も、一番重要なポイントは同じです。イエスを通して神さまご自身が働いていること、「イエスの権威」は神ご自身に由来する。その意味では、わたしたちは、ある意味、安心していいのかもしれませんが。罪という要素を抱えて生きているわたしたち人間は、常に神さまから離れがちになるし、神さまに反する方向にも行きがちになる。でも、そんなと

きにこそ、神さまはその「要素」を必ず打ち払ってくださる。

ある意味、わたしたちは「この世的価値観」と「福音」との間を行ったり来たりしています。でも、そこに、いつもキリストを通して神さまからの「力」が働いている、そのことに気づき、それに身を委ねることができるよう、祈りたいと思います。

2021年2月28日：四旬節第2主日B年

マルコ福音書 9章2-10節

今月も「子どもとともに、ささげるミサ」の代わりとして、きょうの説教は子どもたちに向けてお話しさせていただきます。

小学生の皆さん、元気ですか？このところ、暖かかったり寒かったりの繰り返しで、春が近づいて来たことを感じますね。風邪などひかないように気を付けましょう。

さて、きょうの福音は「イエスさまの姿が変わる」という、なんとも不思議な話ですね。どういうことなのでしょう。「服は真っ白に輝き、この世のどんな、さらし職人の腕も及ばぬほど白くなった。」これも不思議な表現ですけど、実はイエスさまが復活なさったときによく使われる言葉が入ったものだと思います。そのことから多くの学者さんたちは、もともと、この箇所は復活されたイエスさまに弟子たちが会った場面だったのではないかと断言しています。それが何らかの理由で、イエスさまの生前に組み込まれて編集された。それなら、なんとなく分かるような気がします。「イエスは、ただペトロ、ヤコブ、ヨハネだけを連れて、高い山に登られた」とありますが、聖書で「山」という場所は、神さまと会ったところなんです。そのことも、もともとは復活されたイエスさまとの出会いの出来事であったことをお伝えしますよ。そして、復活されたイエスさまに出会った人は、神さまによって大きく変えられます。きょうの箇所では、ペトロさんも、なにか、とんちんかんなことを言っていますが、実際に復活されたイエスさまに出会った弟子たちは、みんな、それまでとは人が変わったように、力強くイエスさまや神さまのことを人々に伝え始めました。

わたしがイエスさまとの出会いを強く感じたのは、神さまから呼ばれていることに気付いて、司祭になる決心をしたときでした。もちろん、わたしは幼児洗礼で、赤ちゃんのときに洗礼を受けたので、子どものころからイエスさまのことは、ずっと知っていたけど「イエスさまは十字架にかけられて、そのあと復活なさったんですよ」と教えられても、ただ「ふーん…」って思っていました。若いころイエスさまとの出会いを熱く語っている人たちの話を聞いたり、文章を読んだりしましたが、なにかしっくりきませんでした。前にも言いましたが、わたしは若いときは、コックさんになりたかったんです。でも、あるとき、ふと、わたしはコックさんになりたいたけど、神さまはわたしに何をさせたいのだろう…と考えて「神さま、教えてください」って祈ってみたら、神さまは、わたしを司祭として働かせるがっているらしくて、ずっと前から呼んでくださっていることに気付きました。「な～んだ、それなら早く言ってくださいよ」って思ったけど、神さまの方は、ずっとわたしを呼んでくださっていて、それにわたしが気付かなかったのだ、と分りました。そして、そのとき「あ！これが復活されたイエスさまと一緒にいてくださっていることなのだ！」と強烈に感じたのです。わたしにとってイエスさまは、神さまがわたしの名前を呼んでくださっていることに気付かせてくださる方なのです。

そんなわけで、わたしは司祭になりました。そして、神さまは、すべての人をいつも名指しで呼んでくださっているのです。みんなもいつか、イエスさまがいつも一緒にいてくださっていること、そのイエスさまを通して、神さまがいつも呼んでくださっていることに気付くでしょう。いや、もう気付いている人もいるでしょうね。そして、神さまは、きょうの福音の箇所にもあるように「このイエスは、わたしの愛する子だよ、あなたといつも一緒にいるよ」と、わたしたちに呼びかけてくださっています。

わたしたちといつも共にいてくださるイエスさまを通して、神さまがいつもわたしたちを呼んでくださっていることに、一緒に心向けましょう。